

三木家の邸宅は福崎の著名な役人一家の家であり政治を行う場所であった。その敷地の初期の建造物は 1697 年にさかのぼり、段階的に建築が続いた。1874 年、新しい「銀の馬車道(銀山の馬車道)」(現在は銀の馬車道として知られている生野鉱山寮馬車道)の建設が始まると、家の前の土地が 1.8 メートル引き下がることとなり、そのため新しい正面玄関と南側の塀が必要となった。

1885 年、その邸宅は「日本民俗学の父」となった学者である若き柳田国男(1875-1962)が住むことを引き受けた。当時 11 歳だった彼は三木家の蔵書を幅広く読み、それが彼の将来の探求への大きな影響を与える経験となった。

1972 年、三木家の邸宅は兵庫県的重要文化財に指定された。2010 年から 2016 年にかけての大きな改築はできるだけ多くの元の材料を再利用し、正面の事務室と生活空間が復元された。